

実施計画事業名		日口定期航路充実推進事業		評価対象年度	平成 23 年度			
評価担当部署		建設産業部 サハリン課		課長(主幹)名	佐藤 秀志			
総合計画体系	分野	5	産業振興					
	政策	4	地域資源の再発見・世界への発信					
	施策	3	サハリンとの経済交流を促進します					
	関連施策							
現状と課題	サハリンとの往来や貨物輸送を行うための安定した交通機関の確保とその通年化、旅客、貨物量の確保、乗客増加のための受入環境、定期航路運航経費、コルサコフ港フェリーターミナル施設整備等が課題となっている。							
目的	安定的な運航と通年化により、北海道サハリン間の経済文化交流の基盤となし、両地域の発展に寄与する							
施策展開の	①船主:運航費助成と利便性の高い運航スケジュール及び通年運航の要望 ②関係行政機関:定期航路利用促進のための会議開催、運航支援要請 ③旅行エージェント:ツアー実施についての要望と実施に係る助成、各種PR活動 ④貨物に係る関係企業:定期航路利用に係るPR							
成果指標	名称		単位			22 年度	23 年度	25 年度
	年間乗客数		人(上段)		目標	4,000	4,000	4,000
説明	貨物輸送量実績		トン(下段)		実績	1,000	1,000	1,000
	日口定期フェリーが1年間に運んだ乗客と貨物の量					3,903	3,629	
活動指標	名称		単位			22 年度	23 年度	25 年度
	日口定期フェリー運航便数		便		目標	76	76	76
説明	稚内港とサハリンを結ぶ定期フェリーの1年間の運航便数(※往路、復路を各1便としてカウント)				実績	56	56	
					目標	-	-	-
説明					実績			
					目標	-	-	-
説明					実績			
					目標	-	-	-
説明					実績			
					目標	-	-	-
事業費の実績			単位	22 年度 (決算)	23 年度 (評価年度決算見込)	24 年度 (予算)	備考	
	直接事業費(A)		千円	37,278	52,745	52,582		
	国庫支出金		千円	0	0	0		
	道支出金		千円	0	0	0		
	起債		千円	0	0	0		
	その他		千円	0	0	0		
	一般財源		千円	37,278	52,745	52,582		
	この事業にかかる職員数		人/年	0.55	0.75	0.75		
人件費(B)		千円	3,735	5,216	5,216			
計(A+B)		千円	41,013	57,961	57,798			
状況変化	実施計画当初(平成21年～)からの状況変化 平成21年の貨物量の急激な減少と日本からの定期航路利用者の減少で運航収支が極めて厳しい状況が続いているが、サハリン側からの利用者が僅かだが年々増加傾向にあり、旅客の70%をロシア人が占めている。平成20年から本格的に開始したサハリンからのツアー誘致活動が効果を見せていると思われる。							

【1次評価】

成 果	成果指標の単年度の目標値は達成できたか(単年度の目標値がない場合は、長期的な目標値を達成できそうか予測) <b>b</b> a 目標達成 b ほぼ目標どおり c 目標達成できず(目標値と大きな差がある)
	<cの場合は、なぜかを分析して記入する> 近年、本航路の旅客利用実績の割合は70%がロシアであることから、東日本大震災に伴う福島原発事故の発生や為替レートによるドル安円高の現状の中、平成23年度の旅客実績は3,629人で前年比7%の減少となった。特に、ロシア人の旅客実績は前年比21%の減少となった。また、平成23年度は目標を超える4,200人程度の旅客利用を期待していたが、その水準には至らなかった。
細 事 業 の 構 成 ・ 進 め 方	細事業の改廃や新規細事業の必要性はないか <b>a</b> a 問題なし b 検討の余地がある c 早急な改善が必要 <bまたはcの場合は、具体的な細事業名などを挙げ、問題点を記入する>
	各細事業の進め方について、市民との協働、他団体等との役割分担の見直し、環境への配慮など、改善の必要性はないか <b>b</b> a 問題なし b 検討の余地がある c 早急な改善が必要 <bまたはcの場合は、具体的な細事業名などを挙げ、問題点を記入する> 今後、サハリンからの観光客誘致の取組みを促進するためには、旭川を中心とした道北観光と連携を図りながら、長期的な滞在型観光ツアーの商品化を目指す。また、日本人のバイクツーリングツアーや観光72時間査証免除制度を活用したツアーへの集客支援を図りながら集客に取り組む。
コ ス ト 効 率	無駄なコストが発生していないか、投入した予算や人員に見合った効果が得られているか <b>a</b> a 問題なし b 改善の余地がある <bの場合は、具体的な細事業名などを挙げ、問題点を記入する>
総 合 評 価	<b>B</b> 見直しの検討が必要 <A~C判定を受けての今後の方針、問題点に対する改善策などを記入する> 当面は、サハリンからの観光誘致を重点的に取組みながら定期航路の利用促進に努める。また、日本側からの観光客誘致のためバイクや釣り、トレッキング等のターゲットを絞ったツアー商品化を目指す。また、貨物では冷蔵・冷凍食品や日用雑貨などサハリン側へ小ロットの物流促進に向けて取り組む。

【2次評価】

成 果	<b>a</b>	細事業の構成	<b>a</b>	細事業の進め方	<b>b</b>	コスト効率	<b>a</b>
総 合 評 価	<b>A</b> 概ね問題なし <2次評価者の視点からコメントを記入する> 2項目で構成される成果指標の内、貨物は目標数値を上回っていること、また、乗客数も東日本大震災大震災の影響で外国からの渡航者が激減した状況下での結果であることから、成果を「a」とする。 今後も、サハリン航路の周知徹底など乗客数増加のための取組を進める。						

【内部評価委員会】

意 見	
--------	--